

北海道

みなとまち紀行

函館編①

第4号

■函館編①

今回は東京から東北新幹線に乗って函館に入り取材しました。東京からの所要時間は約4時間。その昔、青森と函館を結んでいた国鉄（現 JR）の青函連絡船の所要時間と同じ時間で函館北斗駅に到着しました。そこから函館ライナーに乗り函館駅に到着。雨が時折ぱらつく生憎の曇り空でしたが、列車を降りると間近に迫る函館山の懐かしい息吹に包まれました。今回は異国情緒あふれる明治、大正の建築群が建ち並ぶ元町界隈を散策します。

駅前から函館どつく前行きの路面電車に乗り十字街で下車。大正12年（1923）に建てられた旧丸井今井百貨店函館支店（現・函館市地域交流まちづくりセンター）の前を通り、^{にじゅっけんざか}二十間坂の急斜面を登りました。この20間（36m）の広い坂は、明治40年（1907）の大火の後、防火帯を兼ねて造られました。昭和9年（1934）の大火では市街の大部分が焼失しましたが、二十間坂のお陰で延焼が食い止められ元町まで及びませんでした。函館は昔から何度も大火に見舞われており、明治に入ってから2、3年に1度、大火が発生しました。元町の現在の街並みは明治11年（1878）と翌年の2度の大火を契機として火事に強い街並みにすべく整備されたものです。函館は大火の都度、立派に再興を果たしました。それには、函館に住む豪商の力が大きかったといわれています。元町公園には、明治期に私財を投じ協力して函館の経済、教育、医療などに尽力した4人の財界人、今井市右衛門（石川県能登出身、1836-1887）、平田文右衛門（函館出身、1849-1901）、渡邊熊四郎（大分県竹田出身、1840-1907）、平塚時蔵（青森県田名部・現むつ市出身、1836-1922）のブロンズ像が設置されています。二十間坂に面して

黒々とした能登瓦の屋根を大きく広げる東本願寺函館別館も、この時（大正4年〈1915〉）に耐火建築として建て替えられた日本初の鉄筋コンクリート寺院です。

旧丸井今井百貨店函館支店



東本願寺函館別院

【レイモンハウス元町店】

その手前の道を右に折れ、白壁に赤い三角屋根が印象的な3階建てのレイモンハウス元町店（旧カール・レイモン工場跡地）へ（地図①）。実は駅前で路面電車を待っている時に、反対方向から来た湯の川行き電車の側面に描かれた函館カール・レイモンの広告を見て、寄ってみることにしました。厚い木製のドアを開け、パンのふっくらとした香ばしい香りが漂う店内を歩いて2階を登ると、そこは函館の人々に本格的なハム・ソーセージを広めたマイスター、カール・レイモン（1894-1987）の生涯を紹



レイモンハウスの広告をまとった路面電車

介する展示室で、白い壁に飾られた写真が優しく迎えてくれます。カール・レイモンはオーストリア=ハンガリー帝国に誕生し、14歳で食肉加工マイスター教育課程に入り修行し、18歳の時にマイスターの称号を取得、ベルリン「ハイネインカンパニー」に就職します。20歳からヨーロッパ各地、アメリカなどで加工技術・経営学を学び、大正8年(1919)、帰国の途中に日本に立ち寄り、「東洋缶詰」勤務、日米合同の缶詰会社の仕事で函館に赴きます。大正11年(1922)、勝田コウと出会い、駆け落ちし、ドイツの生家に戻りハム・ソーセージ店を開きます。大正13年(1924)、函館に戻り正式にコウと結婚。翌大正14年(1925)、函館駅前にハム店を開き、その後、五稜郭工場、大野町工場を完成させ、昭和10年(1935)には長女フランチェスカが誕生します。第二次世界大戦中は日本政府によって操業停止に追い込まれますが、戦後、ハム・ソーセージの製造を再開しました。彼の製法は日本人の弟子に引継がれ現在に至っています。部屋いっぱい



レイモンハウス元町店の外観(左)、出来立てのレイモン・ドッグ



カール・レイモンを紹介する2階展示場

【函館ハリストス正教会】

その後レイモンハウス元町店を出て、急な勾配の^{だいさんぎが}大三坂を上り、坂の途中に建つローマ・カトリックのカトリック元町教会を通り、四方に突き出た円筒形の屋根と白壁に刻まれた大きな十字架が印象的な英国聖公会の聖ヨハネ教会(現・日本聖公会北海道教区)、その隣の函館ハリストス正教会(国の重要文化財)に寄りました(地図②)。函館ハリストス正教会は開港時に渡来したロシア領事が領事館の附属聖堂として建てたもので、明治40年(1907)の大火で焼失し、大正5年(1916)にレンガ積み漆喰塗りの聖堂として再建されました。ここ元町は知る人ぞ知る、我が国のギリシャ正教発祥の地でもあります。教会の鐘の音からガンガン寺の愛称で親しまれています。ローマ・カトリック、ギリシャ正教、英国国教のキリスト教3大宗派が集まる教会群の建物を見学していると、時を知ら



教会に誘う大三坂の石畳



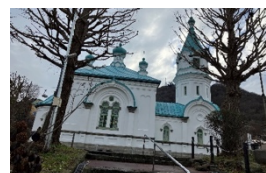
カトリック元町教会



聖ヨハネ教会



函館ハリストス正教会





港の鼓動が聞こえるような八幡坂。往時をし
ばせる青函連絡船摩周丸が浮かぶ

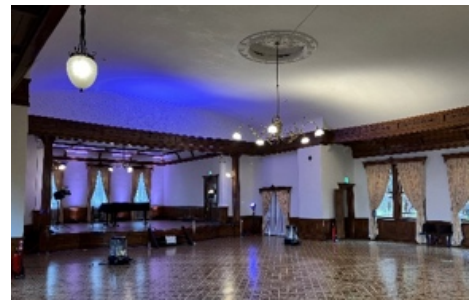
せる鐘の音が
函館の澄んだ
空に響き渡る
ような感覚に
陥ります。大晦
日、満天の星が
瞬く函館の街
に、教会の鐘の
音が響き、停泊
する船から一
斉に汽笛が鳴
る光景が浮か
んできます。

【旧函館区公会堂】

教会の前の道をさらに進むと、ドラマや映画の
舞台によく登場する八幡坂^{はちまんざか}に出ます。記念撮影を
するカップルに混じって、海を見通すこの坂から
の景色をカメラにおさめてから、旧函館区公会堂
へ（地図③）。ブルー・グレーの壁を金色に縁どる
アメリカ・コロニアル風の堂々とした建物は、明治
40年(1907)の大火で焼失した町会所をこの場所に
再建するため、区民の寄付によって明治43年
(1910)に建設されました。いわば函館区民の不屈
の気概を象徴する建物です。その建設費の大半を
北海道屈指の豪商・相馬哲平(越後国蒲原郡荒井
浜：現・新潟県胎内市出身、1833-1921)が寄付しま
した。元町公園に隣接する一角に相馬哲平の屋敷



ブルー・グレーの壁と金色の縁取りが美しい旧函館区公会堂



シャンデリアに映える調度品も美しい2階大広間

が建っています。公会堂の建物の内部は明治の栄
華を思わせる豪華な装飾で覆われており、2階のバ
ルコニーから函館湾が一望できます。



旧相馬邸



旧函館区公会堂2階大広間のペランダからは函館湾が一望できる



【元町公園】

そのあと公会堂前の元町公園を散策しました(地図④)。ここには幕末に全蝦夷地を治めた箱館奉行所、北海道庁函館支庁が立地していました。北海道庁函館支庁庁舎の再建の経緯は、函館の歴史建造物保存運動を考える上で極めて重要な意味を持ちます。朽ち果て、市民からも忘れ去られ、札幌にある北海道開拓の村への移築が決まっていたこの建物を救い再建させたのは、函館在住の田尻聡子さんという方が新聞に投稿した「歴史的建造物はその場所にあるこそ意味があるのです」という一通の手紙でした。そこから、歴史的建造物の重要性に覚醒した市民の保存運動の輪が広がり見事に再生されて現在の姿になりま



市民運動で再建された旧北海道庁函館支庁



元町公園の四天王像(左から今井市右衛門、平田文右衛門、渡邊熊四郎、平塚時蔵)



基坂より函館山と旧函館区公会堂を望む

函館煉瓦で造られた旧
開拓使箱館支庁書庫

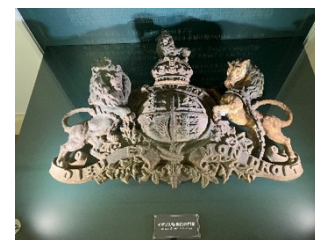


した。今や函館区公会堂や函館支庁庁舎が残る元町公園は、市民の誇りとなっています。その函館支庁庁舎の保存活動から「函館の歴史風土を守る会」(「歴風会」と呼ばれる)が発足しました。

また、公園内にある赤レンガの開拓使函館支庁書庫は、明治5年(1872)に開所した茂辺地村の煉化石製造所で焼いた函館煉瓦で造られた建物で、現存するものは同書庫と市立函館博物館郷土資料



函館市旧イギリス領事館(上)と
領事館の紋章(下)



館(旧金森洋物店)の2カ所だけです。元町公園とその周辺はいわば行政の中心地であり町の基点である場所という意味からでしょうか、港からまっすぐ元町公園に伸びる坂の名は基坂もといざかです。その両側には函館市旧イギリス領事館(地図⑤)、諸術調所跡の道標、ペリー提督来航記念碑が建っています。



基坂に隣接する公園に建つ
ペリー提督像。箱館開港調
査のために来函した

【中華会館】



旧相馬株式会社の社屋

基坂を下り、電車通りを函館どつく前に向かって進み、相馬哲平が創設した相馬株式会社の緑の建物の前を通過して東坂^{あずまざか}を上ると、レンガ造りの中華会館が見えてきます(地図⑥)。この建物は、中国の三国志に登場する関羽を祭る「関帝廟」で、明治40年(1907)の大火で焼失した中国人の集会所の跡に明治43年(1910)に建設されました。建築様式は清朝末期のものといわれ、横浜と神戸の中華会館が第二次世界大戦で焼失したため、国内で唯一の中華会館です。建設材料はほとんど中国本土から調達し、大工、彫刻士、漆工ら43人が中国から来て建てました。釘は一本も使っていないということです。外観は地味ですが、内壁には朱漆や金箔がふんだんに使われる豪華さで、特に柱や額に書かれた中国文字の美しさは比類ないということです。豪華な内部を見学できず残念でした。



清朝末期の建築様式で建てられた
中華会館

1階和風、2階洋風の典型的な函館の家(右)



【ギャラリー村岡】

そこから引き返して、聖ヨハネ教会と小道を挟んで建つギャラリー村岡に伺いました(地図⑦)。建物の前面をガラスが覆い、内部と外部の連続性を考慮した設計は、訪れる人を自然に室内に誘うように配慮されています。店主の村岡武司さんは、元町をこよなく愛する市民団体「元町倶楽部」の代表でもあります。道東の音更町に生まれ、親戚が暮らす函館を訪れて以来、静謐な時が流れる元町の雰囲気忘れられず、東京の大学を卒業すると函館に戻り、旧函館郵便局舎(現・はこだて明治館)の再生利用計画〈ユニオンスクエア〉に株主として参加しクラフトショップを開きました。平成2年(1990)、待望の元町に工芸品を展示する《ギャラリー村岡》を開設しました。その思いを、村岡さんは著書「鐘の音」(じろじろ大学出版会、2005年発行)の中で次のように述べています。

生業として考えたら、工芸家は決して割の良い仕事ではない。しかしそこに身を捧げる彼らには「伝えたい想念」が充ち満ちていて、もちろん作品も多くを語っているのだが、「思い」が口からこぼれ落ちてくるかのようだ。そんな工芸家の中でもとりわけ木を相手にする人たちの話がいい。何百年もの時間をかけ、ゆっくり成長した年輪を一つひとつ指先で確かめるような仕事を続けているの



元町の歴史的建造物群の一角に建つギャラリー村岡の清楚な建物



ギャラリー村岡の店主・村岡武司さん

が木工芸家で、謙虚で誠実でそのうえ雄弁なのだ。素材の吟味から、自然環境や宇宙に至る彼らの語り口からはまるで哲学者のような趣が漂い出すのだ(「謙虚な雄弁」より)

村岡さんに、歴風会から派生したという元町倶楽部の活動を伺うと、「美しく変えるエネルギーと美しさを変えない精神」を基本方針として数々の歴史的環境保存運動を長期にわたって自然体で展開してきたそうです。幾星霜の歴史を刻んだ品質の高い建物の良さを生かし、これからも長く使い続けるために再生する活動—そこには人間と社会の営みを見つめる明快な哲学があります。その活動の中でも特筆されるのが、ペンキで塗られた古い建物をサンドペーパーで擦り、それまで何度も塗り替えられた建物の色彩の歴史を明らかにしたことです。それによって、トヨタ財団主催の研究コンクール「身近な環境を見つめよう」の最優秀賞を受賞し、その賞金をもとにまちづくり基金を創設し、歴史的環境保全の活動を支援してきました。村岡さんは次のように述べています。

「過去はいつも新しい、未来はなぜか懐かしい」という逆説めいた言葉がありますが、保全に勝る開発が成功する例は極めて稀です。粗末に貧しくな



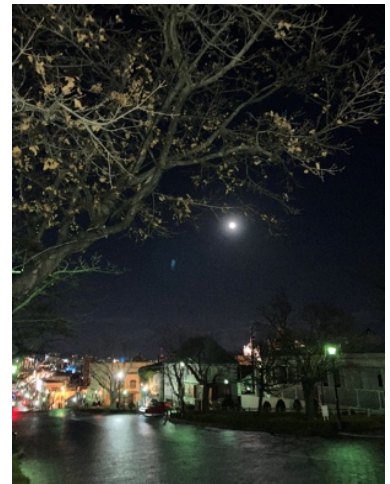
クラフトを展示するギャラリーの店内

る事の方がはるかに多いです。膨大な金をつぎ込んでも入手や再生ができないもの、人々を優しい気持ちにさせるものこそが最も大切な資源ではないでしょうか。ゆっくり流れる時間が函館の一番の魅力です。

ギャラリーの一隅に据えたテーブルでワインを傾けながらお話を伺い、外に出ると雨がすっかり上がり、空には月が煌々と輝き、街灯の灯が行く道を静かに照らしていました。二十間坂を下り十字街から路面電車で函館駅前に移動。

「函館麵屋ゆうみん」(地図⑧)で函館名物の塩ラーメンをいただきました。

(関口信一郎 記)



月に照らされた二十間坂からの夜景



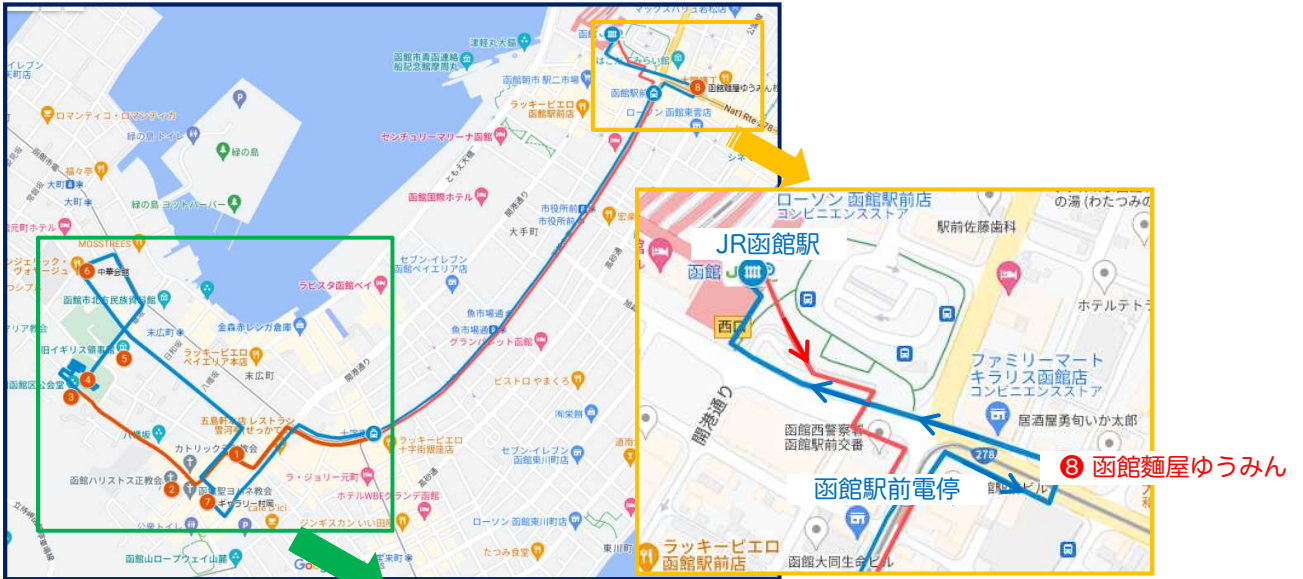
函館駅前の人気ラーメン店

「函館麵屋ゆうみん」



シンプルでさっぱり味の名物塩ラーメン

【今回の散策ルート】



- ① JR函館駅 → 函館駅前電停 → 十字街電停 → ①レイモンハウス元町店 → ②函館ハリストス正教会 → ③旧函館区公会堂
- ③旧函館区公会堂 → ④元町公園 (旧北海道庁函館支庁庁舎) → ⑤函館市旧イギリス領事館 → ⑥中華会館 → ⑦ギャラリー村岡 → 十字街電停 → 函館駅前電停 → ⑧函館麵屋ゆうみん → JR函館駅

【今回の散策ミニ情報】

地図①

レイモンハウス元町店

函館市元町 30-3

電話 0138-22-4596

営業時間

1F ファーストフード 9:00～17:30

1F 物販 9:00～18:00

2F レイモン歴史展示館 9:00～18:00

地図④

元町公園

旧北海道庁函館市庁舎

(Jolly Jellyfish 元町公園店)

函館市元町 12-18

電話 0138-21-3357

営業時間 10:00～18:00

定休日 不定休

※函館の古い写真が展示された2階は
イートインスペースで、人気のステーキ
ピラフが食べられるレストラン

地図⑦

ギャラリー村岡

函館市元町 2-7

電話 0138-27-2961

営業時間 10:00～19:00

定休日 毎週水曜日(祝日は翌日)

※月に1～2回の頻度で企画展を開催
しているギャラリーで、道内外作家の工
芸品を展示即売している

地図②

函館ハリストス正教会

函館市元町 3-13

電話 0138-23-7387

開館時間 10:00～17:00(月曜～金曜)

10:00～16:00(土曜)

13:00～16:00(日曜)

定休日 冬期(12月26日～3月26日)

はお祈り以外の聖堂拝観を休止

拝観料 大人 200円・中学生 100円

(拝観献金)

地図⑤

函館市旧イギリス領事館

函館市元町 33-14

電話 0138-83-1800

営業時間 4月1日～10月31日

9:00～19:00

11月1日～3月31日

9:00～17:00

定休日 年末年始

入場料 大人 300円

学生・生徒・児童・高齢者 150円

※共通入場料

函館市旧イギリス領事館・旧函館区公
会堂・函館市北方民族資料館・函館市
文学館のうち、2館入場で大人 500円、
3館入場で大人 720円、4館入場で大
人 840円で、学生・生徒・児童はそれぞ
れ半額

地図③

旧函館区公会堂

函館市元町 11-13

電話 0138-22-1001

営業時間 4月1日～10月31日

9:00～18:00(火曜～金曜)

9:00～19:00(土曜～月曜)

11月1日～3月31日

9:00～17:00

定休日 12月31日～1月3日

入館料 一般 300円

学生・生徒・児童 150円

地図⑥

中華会館

函館市大町 1-12

電話 0138-22-1211

※内部の一般公開はしていない

地図⑧

函館麵屋ゆうみん

函館市若松町 19-1

電話 0138-22-6772

営業時間 11:00～23:00

定休日 不定休(日曜営業)

<連絡先>

NPO 法人 北海道みなとの文化振興機構

札幌市北区北 11 条西 2 丁目 2-17 セントラル札幌北ビル 5 階

e-mail アドレス : mail@minato_bunka.info